

市指定史跡

昭和45(1970)年5月20日指定
管理者 宝成寺

成瀬氏の墓 附 墓誌

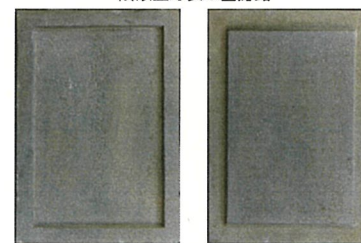
現在の船橋市西部、旧葛飾町一帯はかつて栗原郷といわれ、江戸時代初期に大名成瀬氏の領地でありました。ここ宝成寺にある成瀬家の墓所は、船橋市で唯一の大名関係の墓です。

成瀬正成は徳川家康の側近の一人で、天正18(1590)年に家康が関東に移封されるとすぐに栗原郷4千石を与えられ、その後関ヶ原の合戦などの武功で石高を加増され、大名に列しました。やがて家康の九男義直が尾張徳川家を創設すると付家老として後見役に任ぜられ、元和3(1617)年に尾張犬山城主となりました。正成の死後、犬山城主は長男正虎が継ぎましたが、正成は生前次男之成に栗原郷4千石他を譲っていたので、之成が栗原藩の2代目となりました。その後之成は39歳で没し、1歳の之虎が跡を継ぎましたが、その之虎も寛永15(1638)年に5歳で夭折したため、栗原藩成瀬家は断絶しました。一方犬山の成瀬家は存続し、明治時代には子爵になり、子孫が犬山城を所有しました。宝成寺は江戸における成瀬家の菩提寺とされていたので、一族の墓の一部が営まれ、明治9(1876)年までの墓碑が残されています。

墓地内には、之成とその殉死者3名の墓碑があります。殉死者を副葬した大名の墓は非常に珍しいものです。また、駒型の墓は第7代犬山城主正寿のもので、台石を除いた高さは約3.6m、幅90cm、厚さ40cm余りで、県内では最大級の墓石です。

昭和44(1969)年に正寿の遺骨を国元の白林寺に移すため墓石の下を発掘した際、正寿の墓誌が出土し、その後墓地の整理を行った際には、正寿の兄成瀬信濃守正賢の子である成瀬鍋吉の墓誌が出土しました。この二つの墓誌の存在は非常に稀であり貴重なものです。

成瀬正寿侯の墓誌銘



(蓋 凹型) (身 凸型)
縦70cm、横47cm

成瀬鍋吉の墓誌



縦33cm、横27cm

船橋市教育委員会